

## 平成29年度茨城県まち・ひと・しごと創生会議効果検証部会 検証結果

- 1 日 時 平成29年8月24日（木）午前10時から12時まで
- 2 場 所 県庁舎5階 庁議室
- 3 出席委員 蓮見委員，米倉委員，西野委員，小田部委員
- 4 委員からの発言要旨

### 【個別事業に対する意見】

#### （1） つくば等の科学技術を活用した成長産業創出プロジェクト

[米倉委員] ITやイノベーションの分野は、個別の技術も非常に重要だが、情報の交流により相乗効果が生まれるケースが多い。芽が出てきたいくつかの事業について、他の企業との情報交換や交流、広報による他の企業への周知等の横展開に取り組むことで、成果が出やすくなるのでしっかり取り組んでもらいたい。

[蓮見委員] ロボット，IoT等の事業展開にあたっては、農業，漁業，宇宙などテーマをもって、戦略的に進めてもらいたい。

#### （2） 北関東三県海外展開プロモーション事業

#### （3） 県産品海外展開ステップアップ事業

※2事業一括で説明

[米倉委員] 栃木県内のある企業が、ベトナムのダナンに事業展開する日本企業のバックアップを行っている。北関東三県で同じベトナムをターゲットとしているのであれば、本県単独の取り組みだけではなく、こうした民間企業との連携も含め、それぞれの県が互いの良い部分をさらに打ち出していくことも検討してもらいたい。

[小田部委員] 本県とベトナムの交流は以前から行われており、既に多くの民間企業が進出するなど交流の幅も広がっている。県産品に限らず、茨城県の知名度向上という面でも総合的な波及効果が出てくると、なお良い。

#### （4） いばらき伝統的工芸品産業イノベーション推進事業

[西野委員] 県内の他の市町村が、独自の商品開発や販売の展開を検討するとき、この事業が非常に参考になる。この取り組みを他に紹介するとともに、様々な企画の時に他の市町村も参加できたり、一緒に研修ができたりの機会が設けられると良い。

[蓮見委員] 真壁の石灯籠では、若手技術者がいるのか非常に心配している。相当真剣にやっ  
ていかなければならないと考えている。

#### （5） 中小企業 IoT 等自動化技術導入促進事業

[米倉委員] 情報の共有やノウハウをどのように普及していくかという問題と、個別の企業の知的財産をどのように守るかという問題は、トレードオフの関係にあり、バランスが難しいところである。そうした中、企業グループ間の交流や連携を通して、生産性をグローバルに考え、密な情報共有をできるようにすることが重要である。

[蓮見委員] 情報やノウハウの共有は各企業の企業戦略の部分であり、これを県レベルの大きなムーブメントにしていくのは非常に難しいところだが、IoTの導入に関しては、県内の企業が本気になれるよう県がしっかりと指導していくことが大切である。その意味で、模

擬スマート工場が県の工業技術センターに作られたことは画期的であり、今後も焦点を絞り、最先端を狙った対応をお願いしたい。

#### (6) DMO 観光地域づくり推進事業

[蓮見委員] KPI の各項目について基準値から比べると少しずつ良くなっているが、宿泊観光入込客数が伸びていない。茨城に対する観光地としての評価は急速に上がっていると思うが、泊まる所ではないと思われている。少しでも宿泊観光入込客数を増やす取り組みが必要である。

[米倉委員] 訪日旅行者の情報ルートが、旅行代理店経由から SNS 経由に急速にシフトしている。いくら訪日旅行者に周知しようと思っても、周知するルートが違っていると届かない。情報がきちんと届くよう、活用するメディアを考えてもらいたい。

#### (7) 第2のふるさと・いばらきプロジェクト推進事業

[西野委員] 移住しようと考えている方にはいろいろなケースがあるので、ターゲット毎にPR方法を変える等、少しずつ実験しながら事業を組み立てていくのが良いと考える。また、茨城大学でも、東京に在住の卒業生等に対するサポートに取り組む予定なので、いろいろな形で連携が図れば良いと考えている。

#### (8) 水郷筑波・サイクリングによるまちづくりプロジェクト

[米倉委員] 資料にあるとおり広報が課題である。コースも良く整備され、行った人はその良さが分かるが、周囲には伝わらない。また、インターネットに掲載している情報で、更新されていないものは、ネガティブキャンペーンにつながるので削除した方が良い。世間では“インスタ映え”という言葉が盛んである。サイクリングコース上でも、“インスタ映え”するポイントを設定して重点的にプロモーションすると、費用もかからず、効果的な広報ができると考える。

[蓮見委員] “ダイヤモンド筑波”と呼ばれる、筑波山の中心に日が沈むという神秘的な景色がある。そのようなものも含めて、ポイントを発掘してほしい。

#### (9) 地方創生人材確保・支援事業

[西野委員] 地方への人の流れの創出の取り組みは、UIJ ターンや就職支援、創業支援等、様々な面に広がってきており、県内の大学等との協力体制は今後ますます重要になる。大学でも新しいプログラムを県や関係機関と一緒に作っていきたいと考えている。また地域経済分析システム (RESAS) の普及については、今年度、茨城大学の中でも取り組みを進めていこうと考えているので、県と連携して進めていきたい。

[米倉委員] 学生の大企業志向はやむを得ないところもある。首都圏の大企業も選択肢のひとつ、県内の中堅企業も選択肢のひとつ、という自由な選択肢がある中で県内の企業を選んでもらうことが理想である。そういう意味では、まだまだ伸び代があるので、茨城大学も含め、COC+やコンソーシアム等との連携を図り、県内全体としての情報の共有や方針の決定をお願いしたい。

- (10) 茨城版 持続可能な地域づくり～「広域公共交通ネットワーク」プラス「小さな拠点」  
※委員よりの意見無し

(11) 公共交通や民間事業者等を活用した日常生活支援事業

[蓮見委員] 過疎地における交通インフラの維持というのは、QOLを保つために必要不可欠な部分と、外出促進のモチベーションをどのように高めるかという二つの側面がある。前者については自家用有償旅客運送などの活用が、後者についてはポイント制度などの活用が考えられる。

**【事業全体に対する意見】**

[小田部委員] 高齢化とともに日常生活支援問題は非常に深刻な問題となってくる。公共交通を活用した日常生活支援事業としてどの辺りまでやるのか難しいところではあるが、しっかりと取り組んでもらいたい。

[西野委員] 事業に取り組む際に、県庁内外との情報共有や連携が不十分なケースもある。事業の準備段階や早い段階で情報を共有してもらいたい。大学や民間等、様々な関係者が意見を出し合いながら事業を組み立てるのが地方創生の事業を進める重要なポイントだと思うので、さらなる連携をお願いしたい。

[米倉委員] 今回の事業の評価にあたり、非常に重要な鍵になるのは、他分野あるいは異分野とどのように連携していくかということだと考える。道具は違っても目標・目的がひとつ、というものが散見される。特に広報に関する連携では、首都圏の若い人向け、リタイヤした人向けなどターゲットを絞り、いろいろな分野で一緒に広報できると良いと思う。また、民間企業の中で、特に社会的な側面から行っている取組を県の事業につなげていくのもひとつの方策と考える。

[蓮見委員] 本日の報告で多くの項目が100%以上であるということで、非常に順調に進んでいるのではないかと感じた。本日の内容を今後の事業展開に反映しつつ、さらに取り組みを進めてもらいたい。

(当日欠席の寺門委員からは、文書による意見提出)

[寺門委員]

- ・事業ごとのPDCAは、全体的に回っていると感じる。
- ・一方で、各事業の執行予算に相応しいKPI実績になっているかわかりにくい。また、事業間のコストパフォーマンスのバラつきが大きい。これらについて適切な検証がなされていない。
- ・さらに、同様の事業を掲げている市町村・民間との連携のあり方等について検討されておらず、県のリーダーシップの一層の発揮が望まれる。